

令和5年度第2回小牧市立図書館協議会 会議録

日時 令和6年2月14日(水) 午後1時30分～午後2時30分

場所 まなび創造館 研修室

出席委員 10名

会長 家禰 淳一 (愛知大学文学部人文社会学科教授)
副会長 高木 花織 (小・中学校校長会図書担当・光ヶ丘小学校長)
坂廻辺 範子 (小牧市社会教育委員)
林 由紀宏 (こまき市民文化財団事務局長)
野田 江美子 (図書館ボランティア代表)
早川 渡 (愛知文教大学図書館長)
長江 美津子 (名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科特任教授)
高島 昇 (公募委員)
舟橋 精一 (公募委員)
河村 直子 (公募委員)

欠席委員 3名

久守 由依 (小牧市小中学校PTA連絡協議会委員)
鈴木 貴子 (指導保育士)
梶田 光俊 (小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター所長)

事務局

中川 宣芳 教育長
伊藤 京子 教育部長
岩本 淳 図書館長
花里 千賀子 図書館図書係長
赤尾 淳 図書館図書係主査

傍聴者 0名

配布資料

資料1 点検評価シート(案)
資料2 令和6年度教育委員会基本方針(抜粋)
資料3 中央図書館利用者アンケート実施要項(案)
※上記に加え、今年度作成したパスファインダー(3種類)

会議内容

■開会

赤尾主査 ただいまより令和 5 年度第 2 回小牧市立図書館協議会を開催いたします。進行をつとめます図書館の赤尾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議を公開しています。久守委員、鈴木委員、梶田委員におかれましては欠席のご連絡をいただいております。本日の出席者は 10 名であり、委員の過半数の出席により会議が成立していることを報告いたします。なお、傍聴者はおられません。会の開催にあたり、中川教育長よりご挨拶を申し上げます。

中川教育長 皆様こんにちは。第 2 回小牧市立図書館協議会の開催にあたりまして、委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃より図書館運営に格別のご理解、ご支援を賜っておりますことを重ねて御礼申し上げます。この中央図書館も間もなく開館 3 周年を迎えます。新しい環境で様々な新しい取り組みが始まり、その一方でコロナウイルスへの対応にも追われ、本当にあっという間の 3 年だったと感じる次第です。そのような中でこれまで大きな事故もなく運営してこられましたのは、皆様をはじめ、図書館を愛し、あたたかく見守ってくださる市民の方々のおかげだと感じており、本当に感謝するばかりであります。一方で、「新しい図書館」として運営も軌道に乗り、落ち着きを見せていることも事実です。今後より一層資料やサービスの充実を図り、既存の利用者様の満足を維持しつつも、新たな利用者の皆様方の発掘に努めていく必要があると感じるところです。さて、本日の議題は 3 点ございます。次第にも掲げておりますが、1 点目は「小牧市教育振興基本計画に係る令和 5 年度実績点検評価について」でございます。この議題は、本市における教育施策の基本となる本計画について、毎年度その達成状況や課題等を確認するために点検・評価を行っているものであり、今後の取り組みの方向性を定める重要な評価となるものでございます。2 点目は「令和 6 年度教育委員会基本方針について」でございます。こちらは小牧市教育振興基本計画の施策のうち、令和 6 年度において重点施策と位置付けるものを決定するものです。3 点目は「利用者アンケートの実施について」でございます。こちらは 8 月に開催しました第 1 回図書館協議会において、委員の皆様よりご提案をいただいたもので、図書館サービス計画の改定に関し、参考とするために実施しようとするものです。様々な観点から委員の皆様にご活発なご議論いただくとともに、忌憚のない

ご意見を賜ることによって、さらに図書館運営が充実してまいりますようお願い申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。本日はお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

赤尾主査 ありがとうございます。続きまして、次第2「議事」に入ります。これより進行を家禰会長にお願いいたします。

■ 議事

家禰会長 よろしく申し上げます。1月1日に能登半島の地震がありまして、思い出しますのは1995年にありました阪神淡路大震災ですね。ちょうど私も堺市立図書館の方にいまして、南の方だったのでそれほどでもなかったのですが、非常に揺れて驚いたのを覚えています。図書館も被害に遭いましたので、それから図書館も防災設備が整いつつあるという形です。その当時からインターネットが普及しました。震災を受けた時に電話回線が使えなくなる状態だったんですね。その時にインターネットが非常に便利であるということで、1995年あたりから徐々に家庭の方に普及したということですね。それでいまでは皆さん、インターネットを使っていると。そして、2011年3月の東日本大震災。このときに図書館としてどうやって情報を発信していこうかと考えました。東日本が受けた被害について阪神淡路大震災の時の資料であったりとか、そういったものを用意して震災コーナーというのを作って発信したことを覚えています。震災にあわれたところでは図書館が全滅してしまったところもありましたので、なんとかして協力できないかと考えていたことが思い出されます。こちらの地方では南海トラフがいずれ来るであろうと言われておりますので、そのときに図書館がどういう情報発信ができるかということを含めて、これから考えていかないといけないなと思っております。先ほど教育長からお話がありましたように、点検評価と基本方針、それから図書館サービス計画の改定にあたりまして図書館アンケート調査を実施するというので、その3点につきましてこれから議事を進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、議事1につきまして事務局より説明をお願いいたします。

花里係長 それでは、議事(1)「小牧市教育振興基本計画に係る令和5年度実績点検評価について」、ご説明させていただきます。資料1をご覧ください。小牧市教育振興基本計画の施策のうち、令和5年度教育委員会基本方針の中で図書館の重点施策として位置付けられた施策については、評価委員会の点検及び評価に先立ち、各所管の審議会に附

議することとされています。図書館においては施策8「図書館ボランティアの育成」及び施策23「レファレンスサービスの充実」がこれに該当するため、本協議会にてご審議いただき、皆様のご意見を頂戴するものです。それでは、順に説明をさせていただきます。まず、基本目標2「認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成」より、施策8「図書館ボランティアの育成」についてです。「内容」といたしまして、「子ども読書活動の推進に繋がるおはなし会や催しが実施できる図書館ボランティアの養成講座を実施し、ボランティアの増員を図ります」としております。続きまして「達成状況」についてです。現時点においてまだ取組みの途中でございますが、一部未定の項目がありますが、表の中ほどに記載してあります「受講者数」については20名に決定しましたので、恐れ入りますが補記をお願いいたします。新規ボランティア団体の立ち上げを前提に、講師として一般社団法人絵本プロフェッショナル協会代表理事の北島多江子先生をお迎えし、全4回に渡るボランティア養成講座を実施しているところです。現在、ちょうど2回目の講座が終了し、残り2回講座がございます。受講生の皆さんを中心に新規ボランティア団体を立ち上げ、えほん図書館を拠点として来年度4月より活動を始める予定です。「課題」といたしまして、新規団体が利用者のニーズを把握し、時代に合わせたイベントを実施していく必要があること。また、そのためには継続的に活動していく基盤の構築を要すること。こういった観点から、当面の間は図書館による十分な支援が必要である、としました。このことから、「今後の取組の方向性」として、「当面の間、図書館の担当職員がボランティアの打ち合わせや練習会に同席するなど十分な支援を行い、活動を軌道に乗せていきます」といたしました。次に、基本目標5「豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり」より、施策23「レファレンスサービスの充実」です。「内容」といたしまして、「レファレンスサービスを継続実施するとともに、その有用性をPRする取組を行います。また、利用者が自らレファレンス事例を検索し、関連本を予約できるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます」としております。続きまして「達成状況」についてです。まず、レファレンス件数につきましては、令和4年度と同程度になるものと見込んでおります。なお、記載されている本年度の実績につきましては、12月末時点の暫定値となっておりますのでご注意ください。このほか、利用者が自分の調べたいテーマに関する資料や情報にたどり着くための調べ方を案内するリーフレット「パスファインダー」を郷土資料2件、児童1件、計3件作成し、館内やホームページにて掲示・掲載いたしました。本日お手元に3部配布いたしましたので、ご覧いただければと思います。また、これまで当館が対応したレファレンス事例集につきまして、図書館ホームページ上に掲載しました。これにより、利用者がキーワード等で事例を検索することが可能となりました。事例につきましては、今後も順次追

加していく予定です。なお、今年度は33件の事例を掲載いたしました。これらに加え、質の高いレファレンスサービスを提供するため、図書館職員のレファレンスに関する知識習得及びスキルアップを目的として、レファレンスの内部研修を月1回実施しました。「課題」といたしましては、引き続きレファレンス利用者に対して迅速かつ丁寧な回答を提供するにあたって、職員間におけるレファレンス事例の集約・共有を継続していくことが必要であること、レファレンス事例集の利用促進を図るため、利用者に対して周知が必要であること、引き続き職員のレファレンススキルアップを図る必要があることとしました。これにより、「今後の取組の方向性」として、職員間における事例の集約・共有を進めることで、回答に係る質の安定と職員の負担軽減を図ること、レファレンス事例集への掲載を積極的に進めるとともに、事例集の周知及び利用促進を図ること、今後も職員のレファレンス研修を実施することを記載しました。説明は以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

家禰会長 ありがとうございます。それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、ご意見ご質問等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

坂廻辺委員 図書館ボランティアの育成について質問があります。新しくボランティア団体を立ち上げることは、大変活動の幅も広がりすごく良いことだと思います。これまでも図書館で活動しているボランティア団体がいくつかあると聞いていますが、今後活動していく中で大きなイベントもきっとできるようになると思うので、新規のボランティア団体と既存のボランティア団体のネットワークというか連携について、何か計画があるのかお尋ねしたいです。

花里係長 現在ボランティア団体は8団体あります。ここに新規に立ち上がるボランティア団体を1団体加え、合計9団体で読み聞かせ等を推進していきたいと考えています。団体間の連携やネットワークとして、既存のボランティアさんと新規に立ち上がるボランティアさんを合わせて、年2回ボランティアのためのスキルアップ講座を開催したいと予定しています。また、ボランティアのみなさんが自由闊達に情報共有ができるよう交流会を年1回開催したいと計画しています。さらに、図書館とボランティアさんとの連携が図れるような会も設けることができればと、検討を進めてまいりたいと思っております。

坂廻辺委員 そうやって広がっていくというのはとても望ましいことだと思いますの

で、応援しています。

野田委員 読み聞かせボランティアをしております野田と申します。レファレンスに関して、私が読み聞かせに来たときに利用者の方から「この本どこにありますか？」と聞かれることがたびたびあります。初めて来た方には絵本が探しにくいという印象がずっとあります。小さめの本からだんだん下の段に行くにしたがって、一番大きい絵本が並んでいるのですが、そのことをもっとアピールするような掲示物があればもうちょっと見やすくなるかなと思います。また、シリーズもの、たとえば「小さなお化け」シリーズなどは固まって置いてありますが、一度見つけてしまえば次からは大丈夫ですが、最初に見つかるときはちょっと大変です。そういう案内がもうちょっとわかりやすくなると良いなと思います。あと、紙芝居の棚に対して大型紙芝居がうまく収まってなくて、ちょっとたわんでるような、紙が折れるんじゃないかというものがあります。それをもうちょっと工夫して上手に置いてほしいと思っていますが、そのあたりの改善はあるでしょうか。

花里係長 レファレンスに関係して絵本の掲示物や紙芝居についてのご意見をいただきました。日々、担当の職員で掲示物を確認したり書架の整頓を行ったり、手を入れているところではあります。しかしながら、児童エリアは小さなお子様もいらっしゃることもあり、本来とは違う場所に本が収まっていたりとか、そういったこともございますので、少しでもわかりやすくなるように子どもさんでも分かるような掲示物や案内を新たに作ってまいりたいと思います。また、紙芝居について、ご心配いただきありがとうございます。確かに大型の紙芝居はどちらの向きに立てても、その大きさゆえにたわんでしまうんじゃないかという心配があります。資料が傷まないように利用者の皆さんにもわかりやすいような形で工夫してまいりたいと思います。

林委員 レファレンスサービスのうち、パスファインダーの作成件数が「3件」と記載があります。昨年度を見ても8件ということなのですが、これは利用が少ないから作成件数が少なくなったのか、考え方を教えていただきたいです。

花里係長 昨年度のパスファインダーにつきましては、郷土資料が上半期2件・下半期2件の合計4件、児童につきましても上半期2件・下半期2件の4件作成しました。今年度は、現在のところ郷土資料が2件、児童が1件です。年度末に向けてまだ期間がありますので、これらに加え郷土については2件、児童を1件か2件作りたいと考えて

おります。今年度の件数が少ないのは利用が少ないからということではなく、作成途中のものがあるためということになります。

舟橋委員 現在行われているボランティア養成講座についての質問です。受講者数が20名ということですが、この方々の属性や、希望や目的などをお聞きしたいと思います。

花里係長 受講者20名のうち男性が1名、女性が19名の合計20名です。年齢層としては、お子様がいらっしゃるような若い方からご年配の方まで幅広くいらっしゃいます。また、読み聞かせの経験がある方もいれば初めての方もいらっしゃいまして、年齢も経験もさまざまな方がいらっしゃいます。目的につきましては、本の読み聞かせなどを通して子どもに触れ合いたいという思いから受講したという声を聞いております。

河村委員 ボランティアに関して、既存のボランティア団体が8団体あるということですが、今回既存のボランティア団体を拡充するのではなくて、新たに新規のボランティア団体を立ち上げる意義というものを教えていただきたいと思います。

花里係長 現在ボランティア団体は8団体あり、えほん図書館で活動しているのはそのうち2団体です。1団体が主に水曜日に活動しており、もう1団体が土曜日を活動日としております。えほん図書館は対象のお子様が小さく、ご家族でこども未来館とあわせてご利用になる方が多いのですが、そういった方たちにもおはなし会を開きたいという思いから、日曜日や平日にも活動できる団体を新たに立ち上げることを目的としまして、えほん図書館を拠点とする団体を新たに結成するということです。

家禰会長 小牧市はえほん図書館を設置しておられますが、他にはあまりないんですね。児童の行事というのは手厚くやらないといけないところもありまして、ボランティア団体がやはり頼りになってきますので、複数団体いたほうが心強いところがあります。他の図書館だと1つの団体が1つの地域を担うところも多いですが、えほん図書館は絵本を専門でやっている図書館なので、手厚いサービスをしていこうとすると、やはり複数団体で手分けしてやっていくほうがいいかなというふうに思いました。レファレンスのパスファインダーについて、これを作っていくというのは、小さな冊子なんですけど中身を検証していかなければなりませんので、なかなか時間がかかるものなんです。なので、そんなに量産ができないというところもあります。特にこれは詳細に作っておられますので、またいろんなテーマで作っていただければと思っています。他に何かご意

見、ご質問がございますでしょうか。よろしいですか。それでは、次に議事2につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

花里係長 それでは議事(2)「令和6年度教育委員会基本方針について」、説明させていただきます。資料2をご覧ください。令和6年度の教育委員会基本方針につきましては今後教育委員会内で決定していくこととなりますが、各施策のうち、図書館が重点的に行う具体的な取組みとして次の2点を選定いたしました。まず、施策8「こどもの読書活動の推進」から、「施設配本サービスの実施」をあげさせていただきました。現在も、たくさんのご利用をいただいている施設配本サービスにつきまして、こどもの読書活動をさらに支援していくため、これまで以上に利用者層を広げていきたいと考えております。具体的には、現在施設配本サービス未実施の小規模保育事業所に対し、サービスの利用に繋がるよう周知していきたいと考えております。次に、施策23「図書館サービスの充実」から、「電子図書館の充実」を選定いたしました。「こまきデジタル・コレクション」として一般公開している電子化した郷土資料について、特集コーナーを電子図書館内に設け、広くPRしていきたいと考えております。説明は以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

家禰会長 ありがとうございます。それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、ご意見やご質問等ございましたら、ご発言をお願いいたします。デジタルコレクションについて、独自の地域資料を公開されていて誰でも読める形になっているんですが、なかなか利用が少ないと思うんです。なので、特集コーナーを作るということは、かなり効果があります。一般資料につきましては、特集でブックフェアのような形を取ったり、ホームページを充実させたりしていますが、地域資料の方にまで特集コーナーを作るということで、利用されることが多くなるんじゃないかと思っています。

早川委員 デジタルコレクションについて、他の図書館でもいろんなデジタル化はされていると思うんですけれども、小牧で所有しているものをメインとして行うということでしょうか。

花里係長 はい、その通りでございます。当館が所蔵している小牧の郷土資料や地域資料、代表的なものは象山文庫になるんですけれども、そういったものをデジタル化いたしまして、ログインなしでどなたでもご利用できるようにと整えたものがこまきデジタル・コレクションです。当館が持っている資料をデジタル化したものが閲覧できると

いうものになります。

長江委員 配本サービスについて、小規模保育事業所に対してサービスの周知を図るという部分について、すごく良いところに視点を置かれて幅を広げられたと思います。小さいお子さんのお母さんたちからすると、本屋さんにも図書館にもいっぱい絵本はあるんだけど、どの年齢にどんな絵本を選べば良いかわからないという方もいらっしゃいます。また、小規模保育所の先生方が選ぶときにも、またお母さんたちにそれを貸出をされるときにも、あらかじめ図書館が選んだ中から選択できることは、いちばん忙しい年代のお母さんたちにとって、図書館に足を運ぶ時間もない中で送迎の時に本を手にとってもらえて、より親子の絆やふれあいが深まって良いなと思います。そのときに、子どもの本や絵本はもちろんなんですけど、お母さんたちが手に取って読まれるような伝承遊びとか草花遊びとか、あるいは「夜一緒に寝るときに歌を歌ってあげたら」というと「どんな歌が良いんですか」と聞かれることもあるので、そういう親子で遊べるような幅広い本を配本していただけるとありがたいなと思います。

家禰会長 他にご意見やご質問がございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、意見が出尽くしたようですので、議事2については以上で終了いたします。続いて、議事3について、事務局より報告をお願いします。

花里係長 それでは、議事(3)「利用者アンケートの実施について」、ご説明を申し上げます。資料3をご覧ください。昨年8月に行われました図書館協議会にて委員の皆様よりご提案をいただきました利用者アンケートにつきまして、3月に実施したいと考えております。実施の目的は、令和7年度に控える図書館サービス計画改定に先立つ情報収集です。本アンケートの結果を参考に、来年度改定作業を進めてまいります。続いて、実施の方法についてご説明いたします。実施期間は3月16日から同月24日の9日間としました。この期間は中央図書館開館記念ウィーク「ぶらりブラ！」としてさまざまなイベントを予定しており、多くの来館者が見込まれることから設定したものです。対象者は小学生以上とし、一般用と小学生用で個別にアンケートを作成します。回答方法は、Webフォームを使用した非対面方式としました。回答フォームへアクセスするURL又はQRコードを館内各所に設置するとともに、イベント参加者にも直接回答を呼びかけるなど、積極的な周知も行っていきたいと考えております。また、スマートフォン等をお持ちでない方には、職員による聴き取りやアンケート用紙での回答も可能としております。次に、内容についてです。まず、全体として「誰が何をしに図書館に来ているの

か」ということを把握するための設問を主な内容としております。これは、図書館サービス計画への反映を念頭に置いているためであり、満足度調査とは趣旨が異なることにご留意いただければと存じます。なお、小学生用アンケートにつきましてはより平易な表現とし、一部の設問については簡略化又は省略しております。一方、教育振興基本計画の施策でもある「こどもの読書活動の推進」について当事者である小学生の実感を尋ねるため、読書意欲や学校図書館の利用についての設問を追加しております。この点が一般用のアンケートと異なる部分です。本日は、アンケートの形式面・内容面の両方についてご意見を頂戴したいと存じます。説明は以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

家禰会長 8月に行いました図書館協議会の意見を取り入れていただきまして、ありがとうございます。中身につきまして、次のサービス計画に向けた利用者の属性等を取っていきたいということですので、中身についても何かご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

高島委員 私はこの図書館に小さい子がたくさん来るといいと思っています。なぜかというと、小さい子が利用すればその保護者の方が一緒に来てくださるので、一緒に活用して下さって、より利用者が増えるのではないかと考えているからです。そう考えると、この小学生のアンケートをより多くの児童にやってもらえるといいのかなと考えらるんですけど、このアンケートはたとえば小学校で朝の会などを利用して、小牧の小学生全員やってもらうとかはダメなのかなとか思ったり、このアンケートの期間が3月24日までなので、もうちょっと春休みの期間まで実施したら小学生がより回答しやすいのかなかと思いました。より多くの子がこのアンケートを実施して、何を考えて、何を望んでいるのかを図書館が把握して小学生が利用しやすいようにすると、それと一緒に保護者の方も来てくださるので、より図書館の利用につながるのではないかなと思っておりますがどうでしょうか。

花里係長 事務局でも小学校にご協力を得ながら実施するということを検討したのですが、まずは図書館の利用者アンケートということで、ちょうど来月3月16日から様々な企画がある記念ウィークもあるので来館者も増えるだろうということを想定しましてこの期間にさせていただいて、そこで小学生も含めた利用者の方にアンケートを取ろうという案になりました。学校に協力を得るとなりますと、この場でできるともできないとも申し上げにくいので、ご提案としてお受けしたいと思います。また、より小

さい子にたくさん使っていただけるようにすると利用が増えるのではないかとということで、「ぶらりブラ！」が16日から24日までの9日間なんですけれども、もう少し実施期間を延長して春休み期間までとすることも可能だと思いますので、検討したいと思います。

舟橋委員 アンケートについて、図書館というのは全国にいくつもあり、その中に小牧市の中央図書館があるわけです。また、小牧市内にも市民センター図書室が数か所あるわけですね。そういう中で、この中央図書館をこの期間に選んで来るということが、このアンケートの要素にあるのかと思います。そういうことを考えると、一応ここでは中央図書館に来られた人について、属性や利用目的を測るような形になっているんですが、市内であれば市民センター図書室など、そういうのも関連付けて調査されたらどうかとも思いました。それに、居住地の選択肢として小牧市内と市外の2つしかないんですけど、これをもう少し広く、細かくやってもらえると、どこに住んでいる方がここを選ばれたのかということの分布も把握できるんじゃないかなと思いました。そのほか、いろいろ感じることはありますけど、とりあえず以上です。

花里係長 図書室も含めた調査はどうかというご意見と、市内・市外だけではなくて、具体的にもう少し細かく分けたらどうかというご意見を承りました。細分化することで、分布の把握ができるというメリットもございますので、事務局の方で検討して、進めてまいりたいと思います。

高木副会長 今の舟橋委員と同じ意見というか質問だったんですけども、この図書館サービス計画の改定というのが中央図書館のみなのか、市民センター図書室も含むのかというところで、たとえばうちの小学校は桃花台地区にあって、子どもたちだけでは中央図書館に来れず、東部市民センターを使っている子も結構いるんです。もし広く考えるのであればアンケートの幅を広げた方がいいのかなと思って、意見を出そうと思いました。今の事務局の答えで納得しました。

河村委員 実際に一般用のアンケートをやってみたんですけども、10分かかりました。10分かかったというのが、長いのか短いのかは個人によって違うと思うんですけども、ちょっと面倒に思う方がいらっしゃるかもしれません。少し回答しやすいように、たとえば「利用6」の設問なんですけれども、「次の図書館サービスについて知っていますか。または利用したことがありますか。それぞれにご回答ください」とあります。

そうすると、このずっと羅列してある10個くらいに一つずつに答えないといけないようになっていきます。これを選択肢でチェックすることができるようにすると、もう少し答えやすくなるのではないかと思いました。また、「利用3」の設問で、「どのような目的で来館されることが多いですか」という質問なんですけれども、「2つまで選択」となっているのはどういう理由なのでしょう。

花里係長 アンケートの質問が多く10分ほどかかってしまうので、利用者にとって回答しやすいような形にできればというご意見でした。こちらはまだ案の段階なので、事務局の方でできるだけ回答がしやすいように、もう少し改善したいと思います。また、「利用3」の設問について「回答2つまで」と設定しました。アンケートを取ったあと、図書館サービス計画の改定に先立つ情報収集のためにクロス集計などを行おうかと考えており、2つまでぐらいが妥当ではないかと考えました。ただ、本当に2つでいいのか、もしかすると3つぐらいまでがいいのかとか、事務局で検討を進めて一番望ましい形でアンケートが実施できるようにしていきたいと考えております。

河村委員 今回の中央図書館がとても魅力的なものですから、いろんな目的で利用しています。もちろん貸出や返却、あと調べ物をしたり、興味がある本を探したりしています。あと、イベントなども盛んに催されているので、そういうものにも参加したりとかもしています。やっぱり魅力があるので、「2つまで」というのがどういう理由なのかなと思って質問させていただきました。

家禰会長 項目数と答えやすさの兼ね合いがありますので、大変難しいところだと感じています。よくあるケースとして、アンケートに大体の所要時間を記載しておけば、目安になるかと思っています。最初のページに「所要時間5分」などと記載しておくのと、それくらいかと思って回答することもあるので、そういう方法もあります。アンケートは今回が初めてなので、テストケースとして取り入れて、どのような形になるかを結果を見てから考える方法もあると思います。次の図書館サービス計画に反映させていくということで、できるだけ聞くことを多くしたいという思いはあることはあるんですが、見た感じ盛り込みすぎているなと感じました。次のサービス計画についてなんですが、私も図書館でやってみたいと思っていることがいろいろあります。デジタルネットワーク社会になってきていろいろな手続きもデジタル化されていく中で、スマホやアプリの使い方など、たとえば豊橋市図書館もそれらの講座をやっています。それと検索ですね。いろんなオンラインデータベースが導入されていますので、その検索方法を教えている

図書館もありますが、今度「情報の科学と技術」という雑誌の2024年2月号で、「広がるリテラシー教育」という特集が組まれました。いろんな情報が世の中に出回っていますが、その中の情報モラルや情報リテラシー。それと、情報はいろんな形でバイアス、つまり偏向がかかっているんですが、それがどういう偏向がかかっているのか。このネットワーク社会の中で、情報にどういうバイアスがかかった状態で我々がそれを受けて、さらにそれをどのように批判的に見ていくのかということですね。そういった、今のデジタルネットワーク社会が問題点を抱えている中で、我々はどう生活していくかという講座も考えてみたいと思っていますところです。大学ではいろんな教育をやっていますが、特に社会人、我々はインターネットが出てきたのは、勤め始めてからなので、そういったことの教育はほとんど受けていません。高校になると情報1、情報2という科目があって、さらにGIGAスクール構想があり、学校でも情報教育が行われていますが、特に我々の世代はそういった教育を受けていない人が多いです。そういった講座も、できれば図書館が中心となって、情報リテラシーやさまざまなリテラシーについて組んでいければいいと個人的には考えています。何らかの新しいサービス計画を組む際には、そういった点も参考にさせていただければと思います。他に何かご意見や質問はございますでしょうか。よろしいですか。では、意見が出尽くしたようですので議事3につきましては、これで終了といたします。これで本日の議事はすべて終了いたしました。進行を事務局の方にお返しいたします。

■閉会

赤尾主査 ありがとうございます。事務局より事務連絡を申し上げます。1点目です。本日の会議録を事務局で作成いたします。後日、皆さまへ内容確認のメールをお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。2点目です。今年度の図書館協議会は今回で終了となりますが、現委員の任期は6月30日まで継続します。公募以外の委員の皆様におかれましては、異動や退職等により現在の役職を解かれますと、本協議会委員も同時に解かれることとなります。異動等がお分かりになりましたら、お手数ですが図書館までご連絡くださいますようお願いいたします。関連して3点目、委員の改選についてです。7月1日より新たに委員となられる皆様につきましては、順次調整を進めてまいります。また、公募委員につきましても広報こまき4月号にて募集をする予定です。なお、令和6年度第1回図書館協議会の開催時期は、7月から8月頃を予定しております。これをもちまして、令和5年度第2回小牧市立図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございます。